

プラフレキタフスト/タフスト L 施工要領書

古河電気工業株式会社
AT・機能樹脂事業部門

1. プラフレキタフスト/タフスト L について

プラフレキタフストは、合成樹脂製可とう電線管に分類され、電気用品安全法の適用を受ける「特定電気用品以外の電気用品」です。又、JIS C 8411 :2019（合成樹脂製可とう電線管）及び JIS C 8412 :2019（合成樹脂製可とう電線管用附属品）が制定されており、プラフレキタフストはこの中のタイプ-5の合成樹脂製可とう電線管に該当します。

プラフレキタフスト L は ケーブル防護管としてケーブル工事に使用 します。

プラフレキタフスト/タフスト L は、通常の P F S 管と比べ圧縮復元性・耐衝撃性に優れ、且つ整直性がありますので、露出配管に最適です。

2. 特性・特長

プラフレキタフスト/タフスト L は下記の特性・特長を持っているため、配管工事には次のような効果があります。

長所

- (1) 整直性とともにも可とう性があり、手やベンダーなどの工具で曲げることができます。
- (2) 一本当たり 2.5m で取り回しが良く、軽量の為運搬が容易です。
- (3) 管内面の摩擦抵抗が小さく、通線が容易です。
- (4) 切断、接続が容易でネジ切りは不要です。
- (5) 耐食性、耐久性に優れています。
- (6) 非磁性体なので、電磁的不平衡の心配がありません。
- (7) 非電導体なので、管本体の接地工事は不要です。
- (8) 油を使用しないので、作業がきれいです。
- (9) 作業時に騒音が発生しないため、近隣への騒音対策に有利です。

短所

- (1) 季節の寒暖によって配管の難易度が多少異なります。(温度によって管の硬さが変わります。)
- (2) 製品の特性上、多少のソリが出る場合があります。
- (3) コンクリート埋設では、部品類との接続部からトコが浸入する恐れがある為、使用できません。

効果

- (1) 作業時間の短縮
- (2) コストの低減
- (3) 作業性の向上
- (4) 安全性の向上

3. 関連法規の概要

プラフレキタフスト/タフスト L を低圧屋内配線用電線管として使用する場合は、下記の規定により施工します。(表 1 参照)

- (1) 電気設備技術基準の解釈 第 158 条 (合成樹脂管工事) (プラフレキタフスト L を除く)
- (2) 電気設備技術基準の解釈 第 164 条 (ケーブル工事)
- (3) 内線規定 3115 節 (合成樹脂管配線)、3102 節-2 (異なる配線方法相互の接続)
- (4) 日本工業規格 JIS C 8411 :2019、JIS C 8412 :2019 (プラフレキタフスト L を除く)
- (5) 電気用品安全法
- (6) その他関連法令：消防法、建築基準法など

3-1. 電線・ケーブルの選定 (※プラフレキタフスト L はケーブル工事用となります)

- (1) 絶縁電線 (屋外用ビニル絶縁電線を除く) を使用します。直径 3.2mm (アルミ電線にあっては 4.0mm) を超えるものは、より線を使用し、管内では電線に接続点を設けないようにします。
- (2) ケーブルを収める場合は、ケーブル工事の規定に準じます。

3-2. 部品の選定

ボックスその他の部品など (レギュラーを除く) は、電気用品安全法の適用を受けたものを使用します。また粉じん防爆型フレキシブルフィッチングについては、電気設備技術基準の解釈 第 159 条 第 4 項に適合するものを使用します。

異種管との接続の場合は、コンビネーションカップリングなどの専用部品を使用します。

3-3. 配管

- (1) 管口はなめらかとし、電線の被覆を損傷する恐れがないようにします。
- (2) 管の屈曲は、プラフレキタフストの場合管内径の 6 倍以上にします。プラフレキタフスト L の場合は管内径の 12 倍以上にします。

3-4. 管及び部品の連結・支持

- (1) プラフレキタフスト/タフスト L 相互、及びその部品との接続は堅ろうにし、かつ造営材その他に確実に支持します。
- (2) プラフレキタフスト/タフスト L の支持点間の距離は 1.25m 以下^{*}とし、かつその支持点は管端、管とボックスとの接続点、及び管相互の接続点の、それぞれ 0.3m 以内の箇所に設けます。但し支持点間の距離については工事仕様書に準じて施工してください。

※ 施工時と比較して 30℃以上の温度上昇がある場所に、サイズ φ16.22 を施工する場合は管の支持間隔を 0.7m 以下にすることを推奨致します。

- (3) プラフレキタフスト/タフスト L とボックスとは、部品を用いて堅ろうに接続します。
- (4) プラフレキタフスト/タフスト L と部品類の接続時は、部品の奥まで完全に差し込みます。
- (5) ボックス間の配管では、3 箇所を超える直角、または直角に近い屈曲箇所を設けないようにします。又、管路のこう長が 30m を超える場合は、プルボックス等を設置します。

3-5. 施設場所、使用範囲

プラフレキタフスト/タフストLの施設場所・使用範囲を表1・2に示します。

(1) 一般需要場所

表1 一般の需要場所における使用範囲 (内線規定 3102 節)

管の種類			プラフレキタフスト			プラフレキタフストL			
工事の種類 施設場所			低圧回路 (600V 以下)		弱電流 回路	低圧回路 (600V 以下)		弱電流 回路	
			絶縁電線 工事	ケーブル 工事		絶縁電線 工事	ケーブル 工事		
屋 内	露出場所	乾燥した場所	○	○	○	×	○	○	
		湿気が多い場所または水気のある場所	○	○	○	×	○	○	
	いんべい場所	点検可	乾燥した場所	○	○	○	×	○	○
			湿気が多い場所または水気のある場所	○	○	○	×	○	○
		点検不可	乾燥した場所	○	○	○	×	○	○
			湿気が多い場所または水気のある場所	○	○	○	×	○	○
屋外 屋側	雨線内		○	○	○	×	○	○	
	雨線外		○	○	○	×	○	○	
屋外	地中埋設		×	※	※	×	※	※	

○：施設できます。×：施設できません。

※：住宅構内、または車両その他重量物の圧力を受ける恐れがない場所で施工できます。

(2) 特殊需要場所

表2 電気設備技術基準の解釈における使用範囲

使用場所			プラフレキタフスト
			絶縁電線工事
特 殊 場 所 の 工 事	メタルラス張り等の木造造営物における施設。		○
	低圧屋内配線と弱電流電線等又は管との接近又は交差		○
	粉じんの ある場所 (300Vを超える 放電灯を除く)	①爆燃性粉じんのある場所 (マグネシウム、アルミニウム、火薬類の粉じん)	×
		②可燃性粉じんのある場所 (小麦粉、でん粉、その他の粉じん)	○
		上記以外の粉じんの多い場所 (綿、麻、絹、その他の燃えやすい繊維の粉じん)	○
	③可燃性ガス等のある場所		×
	危険物等の ある場所	セルロイド、マッチ、石油類を製造又は貯蔵	×
		火薬類を製造する建物内 (上記①、②、③の場所を除く)	×
		火薬庫内 (火薬類取締法第 12 条の定めるもの)	×
	トンネル内 配線(低圧)	人が常時通行するトンネル	○
鉱山その他の坑道内の配線		×	

3-6. 管の太さと電線引き入れ本数

(1) 同一太さの絶縁電線を同一管内に収める場合は、表3の通りです。

表3 プラフレキタフスト 管の太さの選定表

電線太さ		電 線 本 数									
単線 (mm)	より線 (mm ²)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		プラフレキタフストの最小太さ (管の呼び方)									
1.6		16	16	16	16	16	16	22	22	22	22
2.0		16	16	16	16	22	22	22	22	22	28
2.6	5.5	16	16	16	22	22	22	28	28	28	36
3.2	8	16	22	22	22	28	28	28	36	36	36
	16	16	22	28	28	36	36				
	22	16	28	36	36						
	38	22	36								
	60	22									
	100	28									

(2)異なる太さの絶縁電線を同一管内に収める場合は、表4～6を用いて、電線の被覆絶縁物を含む断面積の総和が管の内断面積の32%以下となるように選定します。

表4 電線（被覆絶縁物を含む）の断面積

電線太さ		断面積 (mm ²)
単線 (mm)	より線 (mm ²)	
1.6		8
2.0		10
2.6	5.5	20
3.2	8	28
	16	45
	22	66
	38	104
	60	154
	100	227
	150	346

表5 絶縁電線をプラフレキタフスト内に収めるときの補正係数

電線太さ		補正係数
単線 (mm)	より線 (mm ²)	
1.6 2.0		1.3
2.6 3.2	5.5 8	1.0
	14 以上	1.0

表6 プラフレキタフスト内の内断面積の32%

管の太さ (管の呼び方)	内断面積の32% (mm ²)
16	64
22	121
28	196
36	325

【例】

2.0mm³ 本、8mm²3 本を収めることができる管の太さ

表4 から電線の断面積の合計は、それぞれ次のようになります。

$$2.0\text{mm} \quad 3 \text{本} \cdots 10\text{mm}^2 \times 3 = 30\text{mm}^2$$

$$8\text{mm}^2 \quad 3 \text{本} \cdots 28\text{mm}^2 \times 3 = 84\text{mm}^2$$

算出した電線の断面積の合計に、表5 の補正係数を乗じて計算断面積を求めます。

$$30\text{mm}^2 \times 1.3 = 39\text{mm}^2$$

$$84\text{mm}^2 \times 1.0 = 84\text{mm}^2$$

$$123\text{mm}^2$$

上記のように電線の計算断面積の総和は、123mm² となります。

表6 について見ますと、123mm² を内断面積の32%とするものは、太さ28以上の管となります。

(3) ケーブル工事の場合

プラフレキタフスト/タフストLをケーブル工事に使用する場合は、ケーブルの仕上がり外径（複数本数の場合はそれら全体の外接円径）の1.5倍以上の内径を持つ管を選択します。

【例】ケーブル仕上がり外径が20mmの場合

$20 \times 1.5 = 30\text{mm}$ 以上の内径を持つ管を選択します。⇒ 呼びは36を選択します。

3-7. 接地（金属製のボックス、粉じん防爆型フレキシブルフィッチングとの接続時）

(1) プラフレキタフスト/タフストLを使用電圧300V以下で金属製のボックスに接続して使用する場合は、又は粉じん防爆型フレキシブルフィッチングを使用する場合は、ボックスなどにD種接地工事を施す必要があります。

ただし、使用電圧が直流300V又は交流対地電圧150V以下の場合で、人が容易に触れるおそれがないように施設するとき、又は乾燥した場所に施設する場合はこの限りではありません。

(2) プラフレキタフスト/タフストLを使用電圧300V超過で金属製のボックスに接続して使用する場合は、又は粉じん防爆型フレキシブルフィッチングを使用する場合は、ボックスなどにC種接地工事を施す必要があります。

ただし人が触れるおそれがないように施設する場合はD種接地工事でもよいものとします。

4. 施工

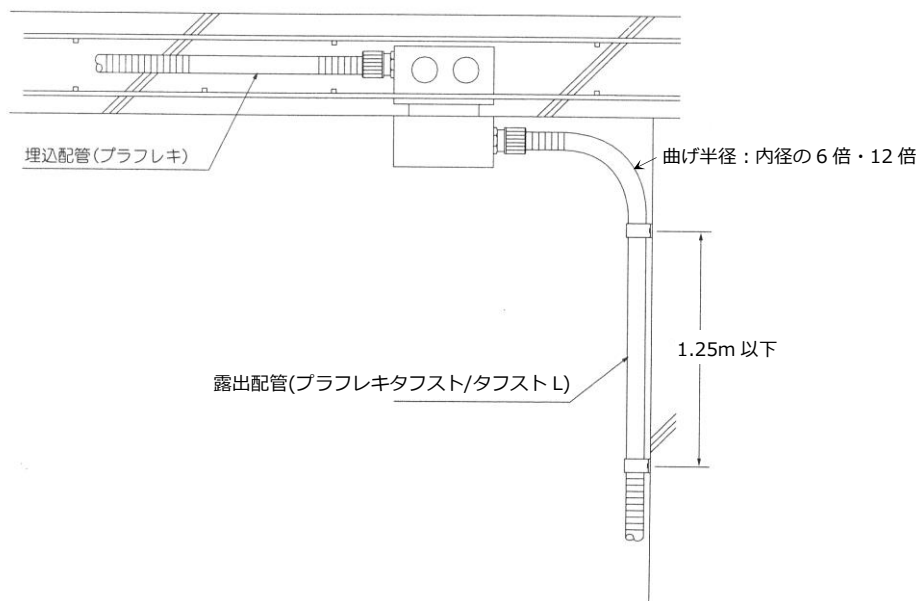
4-1. 露出配管

露出配管の支持間隔は1.25m^{*}以内とします。

（支持間隔については工事仕様書に準じて施工してください。）

※ 温度変化による配管の伸縮を考慮し、施工時と比較して30℃以上の温度上昇がある場所にサイズφ16.22を施工する場合は管の支持間隔を0.7m以下にすることを推奨致します。

管の曲げ半径は、プラフレキタフスト：管内径の6倍、プラフレキタフストL：管内径の12倍となります。5-5項に詳細を示します。



4-2. 施工上の注意点

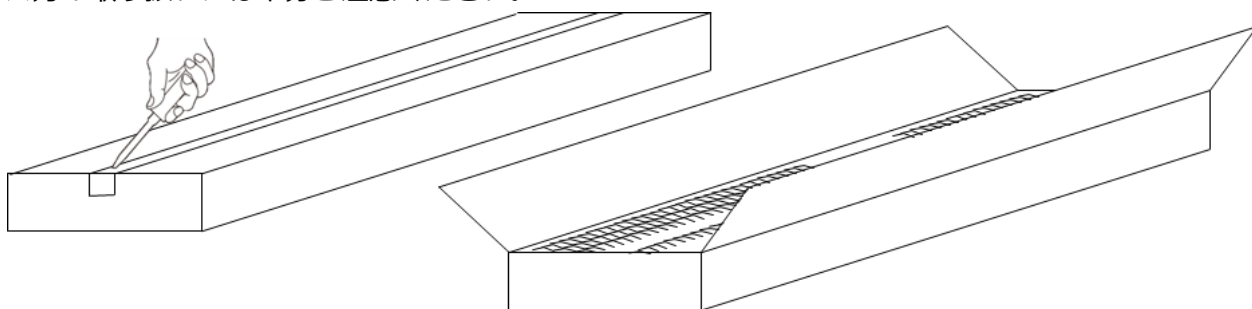
- (1) 施工可能な温度範囲は、-5℃～60℃となります。
- (2) 溶接などの火花で損傷を受けぬよう注意してください。
- (3) 有機溶剤・接着剤・薬品類に接触させないでください。
- (4) 施工にあたっては、電気設備技術基準や内線規程など関連法規・規則を厳守の上、正しく工事を行ってください。なお、プラフレキタフスト/タフスト L を使用した工事には、電気工事士の資格が必要です。
- (5) 他社品とは、管及び部品に互換性のない製品があるので注意してください。
- (6) 露出配管の屈曲部分は、通線の際に動かないように十分な支持を行ってください。
- (7) 接続されたボックスは曲がりやすいので、ボックス自身を固定してください。
- (8) 水道、ガス管若しくはこれらに類するものと直接接触しないように注意してください。
- (9) 運搬・保管の際は、平らな場所に横置きして、荷崩れしないように注意してください。なお、屋外で保管する場合は、簡単な屋根を設けるかシートをかけて、直射日光を避けるようにしてください。なお、シートかけの場合は高温にならないよう風通しをよくするように注意してください。
- (10) 残材・端材として廃棄する場合は産業廃棄物となるので、適切に処理してください。

5. 使用方法

5-1. 開梱

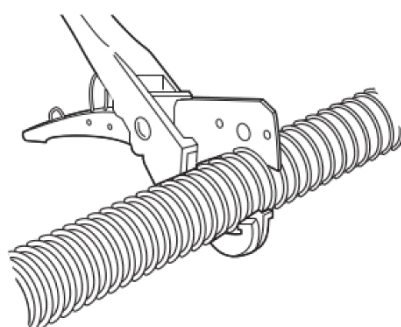
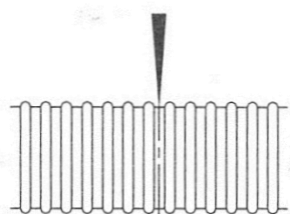
プラフレキタフスト/タフスト L は、箱梱包になります。開梱の際は段ボールノコやハサミなどで箱のテープ部を切断してください。その際に工具の刃先でプラフレキタフスト/タフスト L に傷をつけないようご注意ください。

※刃の取り扱いには十分ご注意ください。



5-2. 切断

プラフレキタフスト/タフスト L の谷部に沿ってパイプカッター等で管に対して直角に切断します。

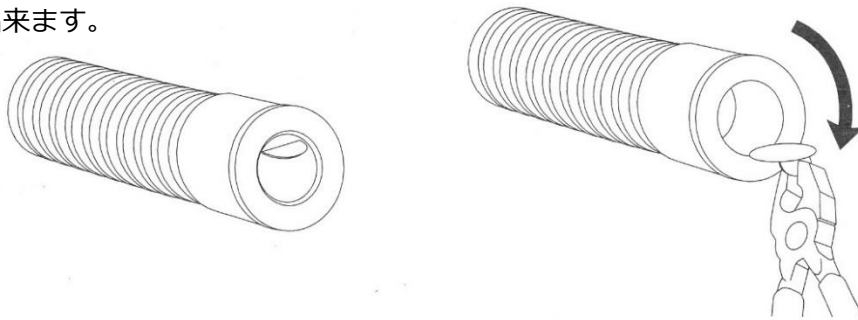


5-3. プラフレキタフスト/タフスト L の部材

プラフレキタフスト/タフスト L は、プラフレキ PFS・PFD の部品類と互換性がありますので、従来のプラフレキ PFS・PFD 部品を使用する事が出来ます。

5-4. 管口の保護

プラフレキタフストの管口（切断口）の異物混入防止には、エンドブッシング・ウエザーキャップを使用します。エンドブッシングのノックアウトを除去すると、ケーブル引き込み時の外傷防止・外観の仕上げに使用出来ます。



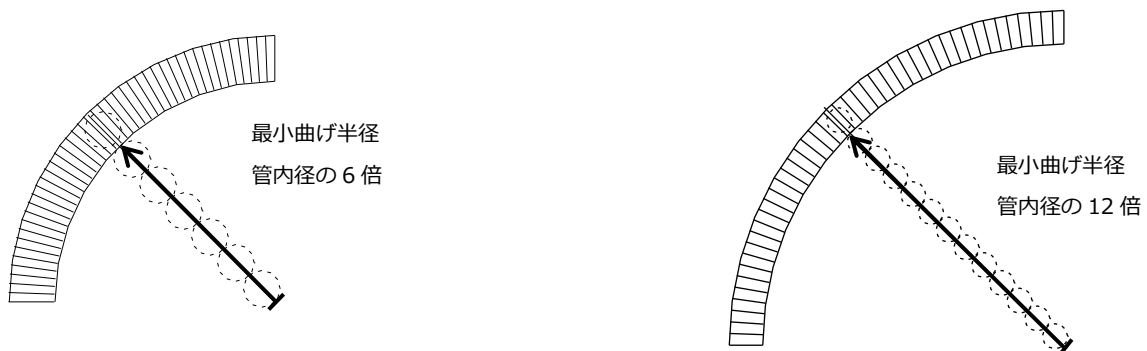
プラフレキタフスト L の管口の異物混入防止には、管口に自己融着テープや PVC テープ等を密に巻き付けるなどし、湿気・じんあい等が侵入しないように保護してください。

5-5. 曲げ

プラフレキタフスト/タフスト L は、手、又はベンダーなどの工具を用いて曲げることができます。最小曲げ半径を表 7 に示します。

表 7 プラフレキタフスト/タフスト L 最小曲げ半径

サイズ	最小曲げ半径 (mm)
PFT-16	96
PFT-22	132
PFT-28	168
PFT-36	216
PFTL-42	504
PFTL-54	648



プラフレキタフスト (16-36)

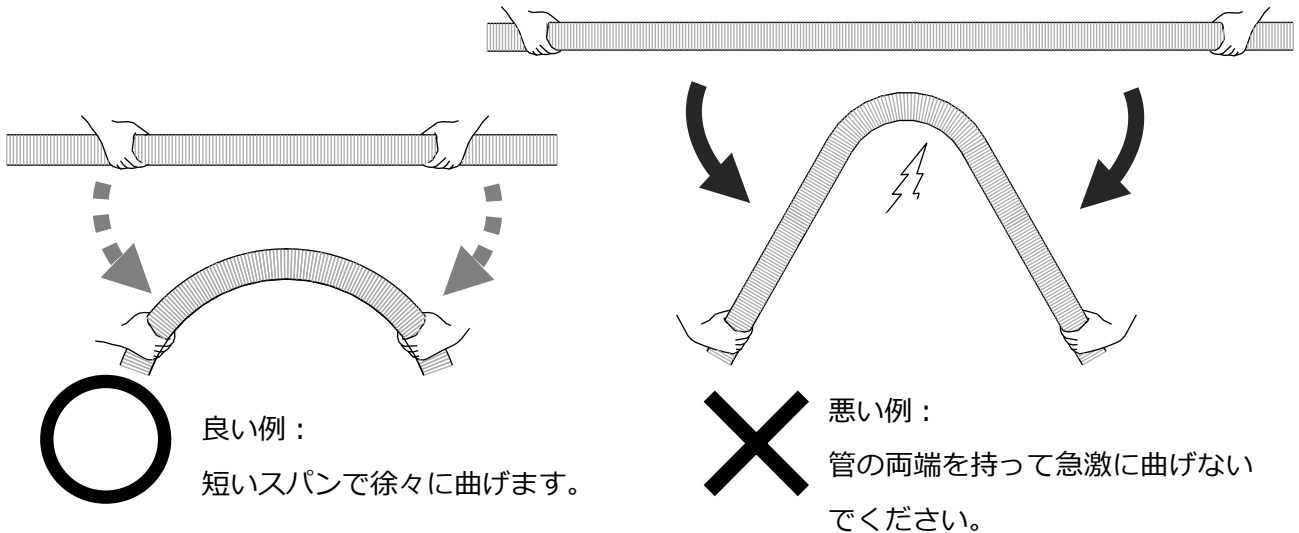
プラフレキタフスト L (42、54)



曲げ施工時の注意

プラフレキタフスト/タフストLを曲げる時は、一ヶ所に力を集中させて局所的に曲げると、破損する恐れがあります。曲げる部分全体を少しずつ曲げ、徐々に馴染ませながら曲げ施工してください。特に低温時は製品が硬くなり、局所的に曲げると破損しやすくなりますのでご注意ください。

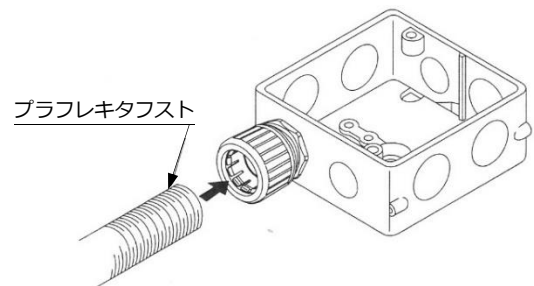
尚、急な曲げが必要な際は、通常のPF管（プラフレキ PFS・PFD）とカップリングを用いて接続して施工していただくと、一体感があり美観に優れた配管とすることが出来ます。



5-6. ボックスへの接続

(1) 通常の場合

プラフレキタフスト/タフストLとボックスとの接続には、コネクタ（又は防水コネクタ）を使用します。コネクタ奥の管止めに、プラフレキタフスト/タフストLの先端が当たるまで差し込みます。

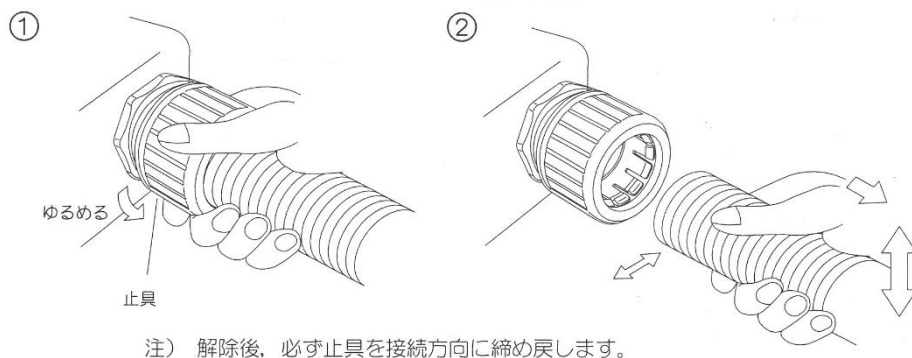


【解除方法】

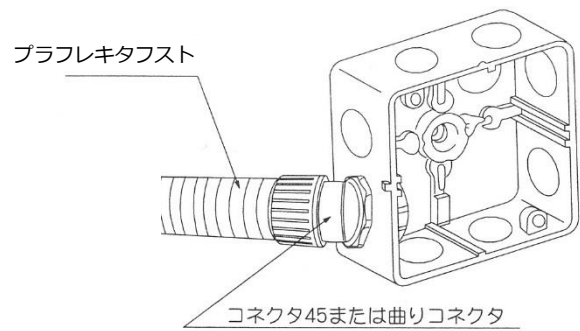
接続をやり直す場合は、次の手順でコネクタからプラフレキタフストを取り外します。

① 止具を解除方向に当るまで（約2回転）ゆるめます。② プラフレキタフストを上下、左右にこじりながら引きぬきます。

※プラフレキタフストLの接続をやり直す場合はコネクタ類を解除できませんので、必要に応じてコネクタ止め具を取り外し、パイプの切断等を行ってください。

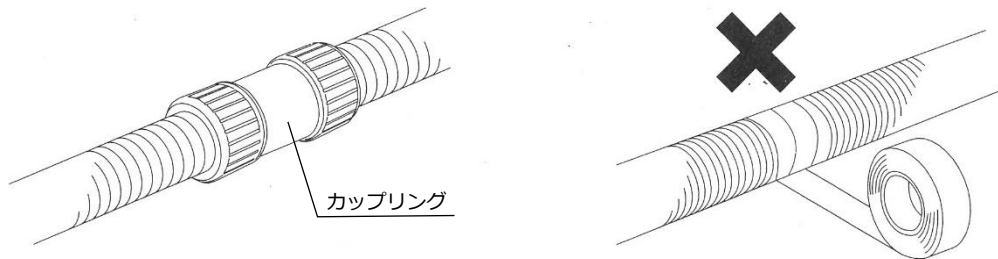


(2)障害物がある場合や、斜め方向から接続する場合は、コネクタ 45 または曲りコネクタを使用します。



5-7. プラフレキタフスト/タフスト L 相互の接続

カップリング（又は防水カップリング）で接続します。プラフレキタフストの先端が、カップリング奥の管止めに当るまで差し込みます。

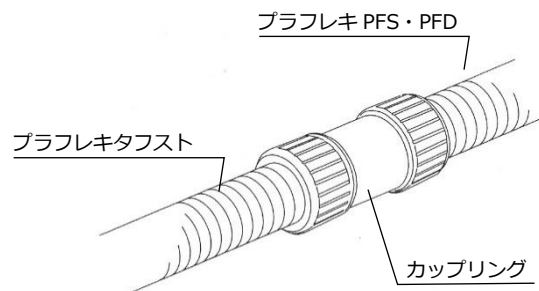


※プラフレキタフスト/タフスト L 相互を直接接続することは禁じられています。

※プラフレキタフスト/タフスト L の切断面が直角に切断されているか、確認してください。

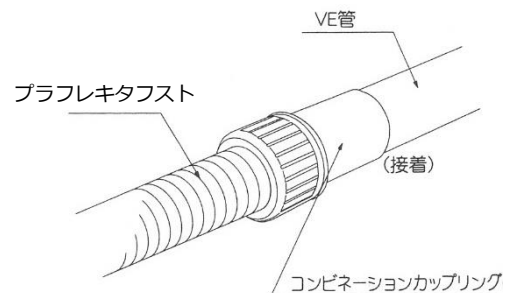
5-8. プラフレキタフスト/タフスト L と異種管との接続

(1)プラフレキタフスト/タフスト L とプラフレキ PFS・PFD は、部品を共有できる為、通常のカップリング（又は防水カップリング）で接続します。



(2) プラフレキタフストと VE 管は、コンビネーションカップリング PV-□CR・PV-□BCR(防水タイプ) で接続します。

プラフレキタフスト L と VE 管は、VE・厚鋼ジョイント PFS-□VG・PFS-□BVG (防水タイプ) で接続します。



(3) プラフレキタフストと薄鋼電線管・Eパイプは、Eパイプジョイント PFS-□JR・薄鋼コンビ※ PFS-□JC で接続します。

プラフレキタフスト L と薄鋼電線管・Eパイプは、薄鋼ジョイント PFS-□JS で接続します。

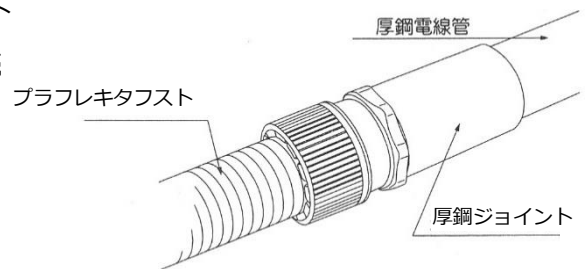


※薄鋼コンビはケーブル工事専用部材となります。

(4) プラフレキタフストと厚鋼電線管は、厚鋼ジョイント PFS-□GR・厚鋼ネジ無しコンビ※PFS-□GNR で接続します。

プラフレキタフスト L と厚鋼電線管は、VE・厚鋼ジョイント PFS-□VG・PFS-□BVG（防水タイプ）で接続します。

※厚鋼ネジ無しコンビはケーブル工事専用部材となります。



プラフレキタフスト 接続部材一覧表

□ : サイズ (16,22,28,36)

パイプ	配管方法	接続相手								
		プラフレキタフスト PFT-□ プラフレキ PFS-□, PFD-□	ボックス類			VE管	厚鋼電線管		薄鋼電線管 Eパイプ	
			ストレート	45°	30°		管端ネジ	ストレート部		
プラフレキ タフスト PFT-□	非防水	PFS-□CR	PFS-□KR ※1	PFS-□MHR	PFS-□MKR	PV-□CR	PFS-□GR	PFS-□GNR	PFS-□JR	PFS-□JC
	防水	PFS-□BCR	PFS-□BKR ※2	/	/	PV-□BCR	/	/	/	/

※1 サイズ16は接続するロック穴径により2品種あります。 ロック穴径：φ22,27（兼用）…PFS-16KR、ロック穴径φ27…PFS-16KLR

※2 サイズ16は接続するロック穴径により2品種あります。 ロック穴径：φ22…PFS-16BKSr、 ロック穴径φ27…PFS-16BKLR

プラフレキタフストL 接続部材一覧表

□ : サイズ (42,54)

パイプ	配管方法	接続相手						
		プラフレキタフストL PFTL-□ プラフレキ PFS-□, PFD-□	ボックス類			VE管	厚鋼電線管	薄鋼電線管 Eパイプ
プラフレキ タフストL PFTL-□	非防水	PFS-□CS	PFS-□KS	/		PFS-□VG	PFS-□JS	
	防水	PFS-□BCS	PFS-□BKS	PFS-□BSKS ※3		PFS-□BVG	PFS-□BJS	

※3 コネクタ全長が通常よりも短いものです。ケーブル工事専用部品となります。

5-9. 支持

プラフレキタフスト/タフスト L の支持については、以下の部材を使用します。支持間隔は 1.25m以下※で施工し、曲がり部分の前後等では、応力の集中を避ける為、適宜支持を増やします。

(支持間隔については工事仕様書に準じて施工してください。)

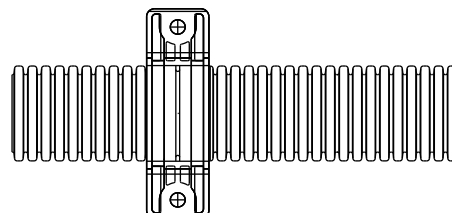
※ 温度変化による配管の伸縮を考慮し、施工時と比較して 30℃以上の温度上昇がある場所にサイズφ16.22 を施工する場合は管の支持間隔を 0.7m以下にすることを推奨致します。

(1) 両サドル

屋内外の壁面等への固定は、両サドルを使用します。

⚠ 施工上のご注意

- ・両サドルは樹脂製ですので、火気を近づけないでください。
- ・両サドルは、有機薬品等に侵される恐れがありますので、接触させないでください。
- ・使用するネジは、太さ 5mm のタッピングビスを用いてください。皿頭ビス・釘は使用しないでください。
- ・ネジの締め過ぎにご注意ください。
- ・コネクタ・カップリングの近くの支持は、0.3m 以内で強い応力がかからないようにご注意ください。
- ・両サドルに強い応力がかからない様、管の最小曲げ半径（表 7 参照）を守ってください。
- ・プラフレキ（タフスト/タフスト L/PFS/PFD）以外の固定に使用しないでください。
- ・高温下での保管は避けてください。



(2) ベース付両サドル

屋内外の壁面で製直な配管をおこなう場合の固定は、ベース付両サドル（両サドルとサドルベースのセット部材）を使用します。サドルベースと組み合わせることで、カップリングの厚み分をかさ増ししてプラフレキタフスト/タフスト L をまっすぐ配管できます。

◆取付方法

- ①配管ルートに伴い、ベース付両サドルを造営物に固定する位置を決めます。ベース表面凹ラインを墨出しに合わせる目安にお使いください。
- ②ベース中央の長穴（φ5.5×8.5）に、φ5mmビスで造営物に固定します。長穴構造により、ベース位置の微調整が可能です。

※ 造営物固定用のビス…呼び径φ5mm、頭部径φ10mm以下、

頭部高さ（ベース 16～36：3.5mm以下、ベース 42・54：4.5mm以下）

- ③両サドルに付属のビスを使い、プラフレキタフスト/タフスト L をベースに固定します。両サドルを固定するビスは付属のもの以外は使用せず、ビスの締め過ぎにご注意ください。

※ 最大トルク：サイズ 16～36…1.91N・m、サイズ 42・54…2.44N・m

施工上のご注意

- ・常時 50℃以上となるような環境化での使用はお控えください。
- ・樹脂製ですので、火気を近づけないでください。
- ・有機薬品などに侵される恐れがありますので、接触させないでください。
- ・ベース位置を微調整する際は、長穴のビスを完全に固定しないでください。ビスを締め過ぎるとベースを破損する可能性があります。また、ハンマーなどで衝撃を与えないでください。
- ・表面が凸凹した造営物にはベースを固定しないでください。ベースが破損する恐れがあります。
- ・ベースを重ねて使用する際、4枚以上としないでください。
- ・両サドルをベースに取付けるビスは、付属のもの以外は使用しないでください。
- ・一度両サドルを固定したベースは、再使用しないでください。
- ・強い衝撃（特に低温環境下）が加わると破損する恐れがあるのでご注意ください。
- ・強い応力がかからないよう、管の最小曲げ半径（表 7 参照）を守ってください。
- ・プラフレキ（タフスト/タフスト L/PFS/PFD）以外の固定に使用しないでください。また、他社の両サドルをベース付両サドルのベースに固定することはできません。
- ・高温下での保管は避けてください。

(3) 片サドル

屋内外の壁面で製直性が重視されない箇所や両サドルが使えない箇所への固定は、片サドルを使用します。

施工上のご注意

- ・片サドルは樹脂製ですので、火気を近づけないでください。
- ・片サドルは、有機薬品等に侵される恐れがありますので、接触させないでください。
- ・使用するネジは、太さ 4mm のなべ型タッピングビスを用いて下さい。皿頭ビス・釘は使用しないでください。
- ・ネジの締め過ぎにご注意ください。
- ・片サドルは片側支持の部材である為、片サドルを曲がり部などの応力がかかる場所で使用すると、施工時の配管状態を維持できない場合があります。特に美観が求められる箇所については、片サドルの支持間隔を短く固定してください。
- ・片サドルに強い応力がかからないよう、管の最小曲げ半径（表 7 参照）を守ってください。
- ・プラフレキ（タフスト/タフスト L/PFS/PFD）以外の固定に使用しないでください。
- ・高温下での保管は避けてください。

(4) Pクリップ

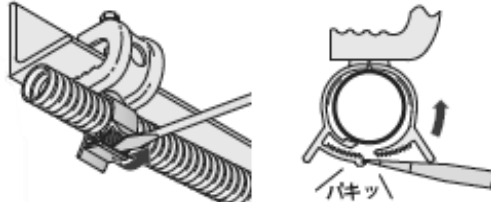
一般形鋼への固定はネグロス電工(株)パイラック®と共にPクリップを使用します。



◆取付方法

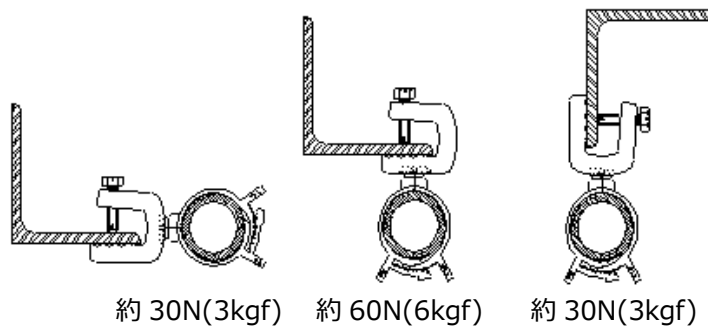
- ①爪部を奥まで差込み、プラフレキタフスト/タフストLをセットします。
- ②突起のある爪部側を固定面から垂直になるように起こして、もう一方を引き寄せるようにパチッと音がするまで、手でいきおいよく締付けて完了です。締付け後にクリップと管の間に隙間がない事を確認します。360°どの方向にも取付け可能です。

◆解除方法



マイナスドライバー等を利用して、左図のように固定部を押し広げて外します。

施工時の許容荷重は、以下の通りです。



約 30N(3kgf) 約 60N(6kgf) 約 30N(3kgf)

⚠ 施工上のご注意

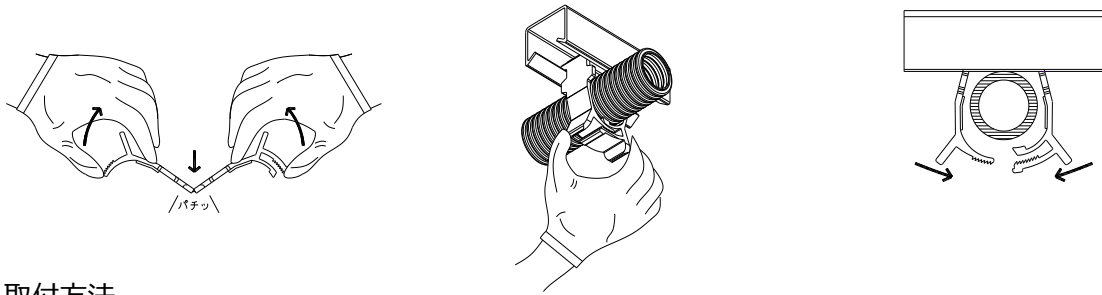
- ・常時 50℃以上となるような環境でのご使用はお控えください。
- ・樹脂製ですので、火気を近づけないでください。
- ・有機薬品等に侵される恐れがありますので、接触させないでください。
- ・あらかじめ分割部を切り離しても、取付けが可能です。
- ・分割部が衝撃等により分離している場合もありますが、性能には問題無く、取り付け可能です。
- ・許容静荷重を上回らないようにしてください。
- ・取り外す際には、クリップの飛散及びプラフレキタフスト/タフストLの落下にご注意ください。
- ・直射日光が当たる場所での使用はお控えください。
- ・プラフレキ（タフスト/タフストL/PFS/PFD）以外の固定等に使用しないでください。
- ・高温下での保管は避けてください。

適合パイラック®

PH1
PH1W
PH2W
PH3W
PH1F
PH1WF
穴径：14mm
板厚：2.3mm

(5) DC クリップ

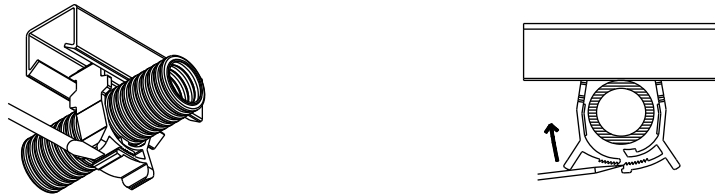
金属チャンネルおよび樹脂チャンネル“プラチャン”への固定は、DC クリップを使用します。



◆取付方法

- ①製品の両端を手で持ち、サイズ表記がある面を垂直になるようにパチッと音がするまで引き寄せ、製品を分割します。
- ②チャンネルの開口部から溝に入れます。プラチャンと組み合わせて使用する場合は、クリップを手前にひくことで仮止が出来ます。
- ③プラフレキタフスト/タフスト L をセットし、2つのクリップを引き寄せるように手できつく締めこんでください。最後にパイプがしっかり止まっていることを確認してください。尚、工具での締め付けは製品が破損する可能性があるので十分に注意してください。

◆解除方法



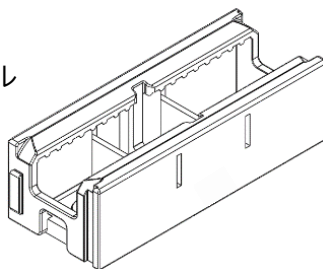
マイナスドライバー等を利用して、上図のように固定部を押し広げて外します。

適合する樹脂チャンネル“プラチャン”または金属チャンネル及び施工時の許容荷重については、以下の通りです。

◆適合チャンネル

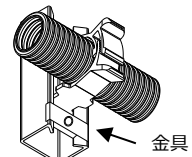
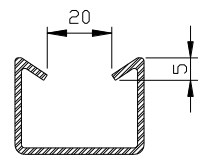
古河電工製樹脂チャンネル

プラチャン (PF-D1CH)

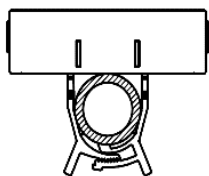


適合金属チャンネルサイズ

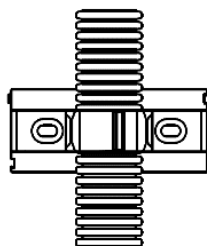
補強例 (注意参照)



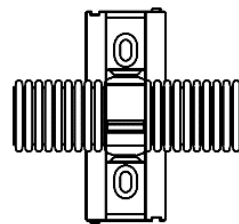
◆許容静荷重




約 60N (6kgf)



約 60N (6kgf)



約 10N (1kgf)

 施工上のご注意

- ・常時 50℃以上となるような環境でのご使用はお控えください。
- ・有機薬品等で、クリップの性能が劣化する恐れがあるのでご注意ください。又、火気を近づけないでください。
- ・作業はクリップ分割部のエッジ等で手を傷つけないよう、手袋を着用してください。
- ・片手でクリップを締付けにくい場合は、両手で締付けてください。
- ・許容静荷重を上回らないようにしてください。
- ・製品が分割部より分離している場合もありますが性能には問題無く取り付け可能です。
- ・取り外す際には、クリップの飛散及びプラフレキタフスト/タフストLの落下にご注意ください。
- ・強い衝撃（特に低温環境下）がクリップに加わると破損する恐れがあるのでご注意ください。又、破損したクリップは使用しないでください。
- ・プラフレキタフスト/タフストLの最小曲げ半径（表7参照）を守ってください。
- ・プラフレキ（タフスト/タフストL/PFS/PFD）以外の固定等に使用しないでください。
- ・高温下での保管は避けてください。

以上